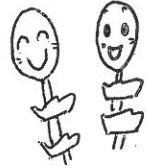


4がっのくもの子の会だよ

〈H.27.4.3〉

平成27年度の始まりです。
子育て交流保育くもの子会も、平成3年よりスタートして、20数年、今年度もおかげで、うれしく思います。
4月から、また新しい出会いを待ち、楽しみにしています。
今年度もよろしくお願ひします。
小さな森のこども園の園児たちとともに、楽しい交流ができるといいな〜と思っています。



あかしの子どもたちは、夕方暗くなるまで外で遊び(外)けていました。オニゴシ、かきわんぼ、たごまさんがころんだ、カンケリ、うまごび、なわごび、すもうごびなど、いろいろな遊びをしていました。公園や空き地だけでなく、道路まわりも遊び場で、まちのいたるところに子どもたちの遊ぶすがたをみることができました。でも、まちで子どもが遊ぶすがたをほとんどみかけなくなりました。



いま、子どもの身体力が弱くなってきたといわれています。男子も女子も身長や体重はあかしのびで、体格は良くなっているのに、走り、とぶといった運動能力はあかしのびもあきらかに下がっています。肥満傾向の子どももふえ、子どもの生活習慣病まで心配されるようになってきています。子どもの身体力が弱くなった理由はいろいろあると思いますが、子どもたちが外で遊ぶ



なくなったことが関係しているのではないかと心配されています。遊びは子どものからだづくりには欠かせないものです。自然とふれあうことができる外遊びはとくに大切です。遊びをつうじて育つものは運動能力や、(ようぶ)からたごびけではありません。

五感というのは、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚ですが、子どもたちは遊びをとおして五感を育て、工夫する力や、自然や人とコミュニケーションする力など、さまざまな能力を育てます。これらの能力は「生きていくための基礎力」とも呼べるもので、やる気や集中力、社交性、協調性、ストレスに耐える力などにもつながっていきものです。この時代、社会で生きぬくための二つは「身体力」ほび、必要とされる能力はありません。

身体力は短期間にできるものではなく、子どものころからの遊びやさまざまな体験をつうじて、矢張り矢張りうちに、しかもすくすくつくられるものです。〈身体力の基本は遊び〉

小さな森のこども園において、いつも私がお思い、(外)にいっしょに遊んでいることが、そっくりかいてありました。このせいです。とても大切なことだと思います。人間は、自然界の中で生かされ、生きています。だから、自然とは生きてもきりはなさないのです。この大自然の中で、自然と共生し、いかに楽しみ、困難もあかしのびにえ、どう生き、生きぬいていけるかだと思います。それは、子ども時代の土台にかかると私は思っています。